

科目名	ヨーロッパ言語圏文化論 特講	担当者	モロサカ 諸坂 シゲトシ 成利	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	対象に《なる》こと、相互主体性、そして擬人法は、文学の、そして文化翻訳の、忘れられがちな重要な構造的要素である。それは古来より人間が作り出してきたもの、すなわち《人形》、《身代わり》、《文字》に端的に表現されている。本講では、前期に《人形》、後期に《文字》を取り上げ、それらの《身代わり》、 representation =表象の問題を考えることによって、今日においても脈々と流れているヨーロッパの源流、その発想を体得することを目的とする。以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、洞察力を身に付けることを目指す。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 西欧の根源にある、ある感覚、ある発想、あるマインドを、具体的な現象から直観と想像力によって体得してもらえればと考える。知識として得るのではなく、ヨーロッパとはどういうものか、東洋世界と何がどう決定的に違うのか、といった理解に導ければと考える。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 受講者は上記の理解によって、東洋文化、そして日本文化に対しても鋭い観察眼をもって本質を理解し、良き鑑賞者となるだけでなく、派生的に得られた comparative mind によって、人の気づかぬ点に気づくようになり、日常的に生じる問題に対しても、良識的に、よりよく対応できるようになるだろう。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 自学自習は学習の常態である。指導過程で映像教材を指示する場合がある。</p> <p>【学修方略 (LS)】 文化理解の方法としては、やはりその根本には《気づき》が必要なのだろう、つまりそれは方法なき方法なのだろう。知識として単純に教えられるものではない。本講ではその《気づき》のための準備はふんだんになされていると考えてもらっていいと思う。《気づき》のためには全く異質なものをレファレンスとして呼び出すこと、傍らに置いてみるのが重要な《方法》となるだろう。ホフマン論のために、ボードレールを、マーテルランクを、ポオを、キップリングを、クエイ兄弟を、ベンヤミンを、カントールを、ボルヘスを、小林秀雄を、ヤン・シュワンクマイエルを傍らに置いてみる。そういった指導は、受講生の方向性により随時行う予定である。</p>		
スケジュール	前期は、7月中旬までに基本教材1のレポート課題1、9月中旬までに課題2を提出する。 後期は、11月中旬までに基本教材2のレポート課題1、翌年1月中旬までに課題2を提出する。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポートの構成力、説得力、洞察力、等々を総合的に評価する。
	平常評価	20 %	1レポートにつき5%で、添削等の対応を評価する。
履修者への要望	勉強を急いではいけない。課題には時間をかけて取り組むこと。本を読むことを急いではならない。そして考えるべき問題が立ち現れてきたら、常にその問題を考えていること。意識だけでなく無意識までも使って考えようとする。そうすると《気づき》の瞬間が必ず訪れる。《気づき》、発見、ひらめきこそは、学問の喜びである。喜びのないレポート、研究は意味がないので書かないようにすること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 香川檀編 教材名： 『人形の文化史——ヨーロッパの諸相から』水声社，2016年，3000円＋税，ISBN978-4-8010-0158-9
	本書の内容はタイトルが示すとおりである。8名の研究者によって人形論が多角的に展開されている。慧眼をもってみれば，人形を通して，ヨーロッパというものがどういうものであるかが理解されるだろう。
参考図書	H.ベルグソン＋S.フロイト，原章二訳『笑い/不気味なもの』平凡社，2016年，1500円＋税，ISBN978-4-582-76836-7
履修上のポイント	まずは教材を通読して欲しい。そして可能であればノートを取りながら読むことである。本書のテーマは実は多岐にわたっているのので，各自の研究に資する何かは必ずあると考える。東洋を専門とする人にとっても，おそらく有益であろう。
レポート課題 1	第4章「E.T.A.ホフマン『砂男』と自動人形——小説，バレエ，オペラ」を要約し（1000字），内容について論ぜよ（3000字）。 留意点： できればホフマンの原作「砂男」およびフロイトの「不気味なもの」を読むこと。
レポート課題 2	本書全体を要約し（1000字），ヨーロッパにおける人形の諸相について論ぜよ（3000字）。 留意点： 概説的に書かないこと。ポイントを絞って，そのポイントが多くものを内包するようにすること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： プラトン，藤沢令夫訳 教材名： 『パイドロス』岩波文庫，1967年初版，現在改版
	言わずと知れた名著である。前半の神話論も重要であるが，後半の文字論を熟読して欲しい。
参考図書	小林秀雄，『本居宣長』（版は特に指定しない）※さらにこの問題圏を探求したい人には，ジャック・デリダの『グラマトロジーについて』（現代思潮新社，2012年），『散種』（法政大学出版局，2013年）を推薦する。
履修上のポイント	長大なテキストではないので，まずは全体を通読して欲しい。対話篇なので，話者たちの気持ちを考えることが重要である。翻訳に問題がないわけではないが，とりあえずはこの翻訳で十分であると考えて。受講者が間違った解釈に進みそうな場合にはその都度指導する。さらに関心のある方は，LOEB双書，あるいはプラトンの英訳などにあたられたい。
レポート課題 1	文字と知識人，偽学者，偽りの学問との関係について述べよ（4000字） 留意点： ここで小林秀雄を使うのは有益な手法である。
レポート課題 2	文字と人形の共通性について述べよ（4000字） 留意点： ゴーレムを扱わなくとも一般化して述べてかまわない。